

住居確保給付金のしおり

仕事を辞めた／収入が減ったことにより、
家賃支払いにお悩みの方へ
～住居確保給付金（家賃補助）のご案内～

（令和８年７月改訂版）

本宮市保健福祉部社会福祉課

住居確保給付金（家賃補助）とは

離職者であって就労能力及び就労意欲のある方のうち、住宅を喪失している方又は喪失するおそれのある方を対象として家賃相当額を支給するとともに、自立相談支援機関による就労支援等を実施し、住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行います。

支給額：下記を上限として、収入に応じて調整された額を支給
福島県内3級地（本宮市全域）

33,000円（単身世帯） 40,000円（2人世帯） 43,000円（3～5人世帯）

支給期間：3ヶ月間（一定の条件により延長は2回まで可能）

支給方法：大家等へ代理納付

住居確保給付金を受けるには、次のような要件があります

申請時に以下の①～⑦のいずれにも該当する方が対象となります。

① 主たる生計維持者が、ア又はイのいずれかに該当すること。

ア 仕事を辞めてから又は事業を廃止してから2年以内の方

※ 離職等の日から申請日の期間内に、疾病、負傷、育児、その他福祉事務所がやむを得ないと認める事情により引き続き30日以上求職活動を行うことができなかった場合は、当該事情により求職活動ができなかった日数を2年に加算した期間とする。上記の加算された期間が4年を超える場合は、4年とする。

イ 自分の責任や都合ではない理由で休業などになって、収入が減った方

② 離職等の日において、その属する世帯の生計を主として維持していたこと。（離職前には主たる生計維持者ではなかったが、その後離婚等により、申請時には主たる生計維持者となっている場合も含む。）

③ 申請日の属する月における、申請者及び申請者と同一世帯に属する方の世帯収入額が「収入基準額」以下であること（収入には公的給付を含む）。

(参考) 本宮市における住居確保給付金の基準額及び収入基準額
(令和8年7月1日申請分～)

世帯人数	基準額	収入基準額(基準額+家賃月額(上限あり))
1人	86,000円	86,000円+家賃月額(上限額33,000円)
2人	124,000円	124,000円+家賃月額(上限額40,000円)
3人	147,000円	147,000円+家賃月額(上限額43,000円)
4人	175,000円	175,000円+家賃月額(上限額43,000円)
5人	209,000円	209,000円+家賃月額(上限額43,000円)
6人	242,000円	242,000円+家賃月額(上限額46,000円)
7人	275,000円	275,000円+家賃月額(上限額51,000円)

※ 8人以上の場合は、福島県社会福祉課にご確認ください。

④ 申請日において、申請者及び申請者と生活をつにしている同居の親族の預貯金の合計額が次の表の金額以下である。

世帯人数	金融資産
1人	516,000円
2人	744,000円
3人	882,000円
4人以上	1,000,000円

⑤ 公共職業安定所等に求職を申込み、誠実かつ熱心に常用就職を目指した求職活動を行うこと。ただし、1 ページ①イに該当する方で、自立に向けた活動を行うことが自立の促進に資すると県(保健福祉事務所)が認める場合は、申請日の属する月から起算して3月間に限り当該取組を行うことをもって、当該求職活動に代えることができる。

⑥ 自治体等が実施する離職等に対する住居の確保を目的とした類似の給付等を、申請者及び申請者と同一の世帯に属する方が受けていないこと。

⑦ 申請者及び申請者と同一の世帯に属する方のいずれもが暴力団員でないこと。

住居確保給付金の支給額

① 世帯収入額 ≤ 基準額

⇒ 支給額は実際の家賃月額（共益費等を除く。）となります。

② 世帯収入額 > 基準額

⇒ 支給額は以下の計算式により算定された額となります。

支給額 = 基準額 + 実際の家賃月額（共益費等を除く。） - 世帯収入額

※ 実際の家賃額が下表の家賃月額（上限額）を超える場合は、家賃月額（上限額）を採用して算定された額を支給します。

（参考）住居確保給付金の基準額及び収入基準額
（令和8年7月1日申請分～）

世帯人数	基準額	収入基準額（基準額 + 家賃月額（上限あり））
1人	86,000円	86,000円 + 家賃月額（上限額33,000円）
2人	124,000円	124,000円 + 家賃月額（上限額40,000円）
3人	147,000円	147,000円 + 家賃月額（上限額43,000円）
4人	175,000円	175,000円 + 家賃月額（上限額43,000円）
5人	209,000円	209,000円 + 家賃月額（上限額43,000円）
6人	242,000円	242,000円 + 家賃月額（上限額46,000円）
7人	275,000円	275,000円 + 家賃月額（上限額51,000円）

※ 8人以上の場合は、福島県社会福祉課にご確認ください。

例：単身世帯の場合

申請日の属する月における世帯収入の合計額が基準額86,000円以下の方は、住居確保給付金支給額は家賃月額分（ただし上限額33,000円）を支給します。

申請日の属する月における世帯収入の合計額が基準額86,000円を超え、119,000円未満の方は以下の数式により算定された額となります。

支給額 = 基準額（86,000円） + 家賃月額（上限33,000円） - 世帯収入額

住宅の初期費用及び生活費が必要な方は

賃貸住宅への入居には敷金・礼金等のいわゆる「初期費用」が必要となります。
「初期費用」への対応が困難な方や、住居確保給付金受給中の生活費が必要な方は、社会福祉協議会の「生活福祉資金（総合支援資金）」を活用することができます。

※生活福祉資金（総合支援資金）

継続的な生活相談・支援（就労支援等）と併せて、生活費及び一時的な資金を貸し付け、生活の立て直しを支援するための貸付けです。

- 1) 住宅入居費：40万円以内
- 2) 生活支援費：2人以上世帯/月20万円以内（単身/15万円以内） 貸付期間
原則3か月 最長1年間
- 3) 一時生活再建費：60万円以内
原則3か月

※貸付利子：連帯保証人を立てる場合は無利子
連帯保証人を立てない場合は年1.5%

住宅を喪失している方であって、住居確保給付金を受給するまでの間の生活費が必要な方は、社会福祉協議会の臨時特例つなぎ資金の貸付けを活用することができます。

※臨時特例つなぎ資金貸付

公的給付等による支援を受けるまでの間の当面の生活に要する費用の貸付
（10万円以内） ※貸付利子：無利子、連帯保証人不要

住居確保給付金の申請をするために必要なもの

① 住居確保給付金支給申請書

② 住居確保給付金申請時確認書

③ 本人確認書類（次のいずれか）

運転免許証、マイナンバーカード等、旅券、各種福祉手帳、健康保険証、住民票、戸籍謄本等の写し

④ 離職関係確認書類

- ・ 離職後2年以内の者であることが確認できる書類の写し

（離職票、受給を終えた雇用保険受給資格者証等がない場合は、例えば、給与振込が一定の時期から途絶えている通帳の写しなど、離職者であることが確認できる何らかの書類）

- ・ 申請日において就業している個人の給与その他の業務上の収入を得る機会が当該個人の責めに帰すべき理由、都合によらないで減少し、当該個人の状況が離職又は廃業の場合と同等程度の状況にあることを確認できる書類の写し

⑤ 収入関係確認書類の写し

申請者及び申請者と生計を一にしている同居の親族のうち収入がある者について、収入が確認できる書類の写し（給与明細書、預貯金通帳の収入の振込の記帳ページ）

雇用保険の失業給付等を受けている場合は「雇用保険受給資格証明書」、年金を受けている場合は「年金手帳」、その他各種福祉手帳

⑥ 預貯金関係確認書類

申請者及び申請者と生計を一にしている同居の親族の金融機関の通帳等の写し

住居確保給付金の申請から決定まで

住宅を喪失している方の場合

◆ 住居確保給付金の支給申請

- ・ 必要書類を添えて、申請書を自立相談支援機関に提出します。
- ・ 申請書の写しの交付にあわせて、「入居予定住宅に関する状況通知書」の用紙が配布されます。
- ・ 住居確保給付金の支給開始までの生活費が必要な方は、市町村社会福祉協議会に申請書の写しを提示して、臨時特例つなぎ資金の借入れ申込みを行うことができます。

◆ 入居予定住宅の確保

- ・ 不動産業者等に申請書の写しを提示して、当該業者等を介して賃貸住宅を探し、住居確保給付金支給決定等を条件に入居可能な賃貸住宅を確保してください。原則として、賃貸住宅を探す範囲は申請書を提出した自治体の地域内です。
- ・ 敷金・礼金などの入居初期費用について、社会福祉協議会の総合支援資金貸付（住宅入居費）を利用する場合はその旨不動産業者等に伝えて下さい。
- ・ 入居可能な住宅を確保した場合には、不動産業者等から「入居予定住宅に関する状況通知書」への記載及び交付を受けます。

◆ 住居確保給付金の確認書類の提出

- ・ 不動産業者等から記載・発行を受けた「入居予定住宅に関する状況通知書」を、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）に提出してください。

◆ 住居確保給付金の審査

- ・ 審査の結果、受給資格ありと判断された場合は、「住居確保給付金支給対象者証明書」が交付されます。
- ・ 受給資格なしと判断された場合、「住居確保給付金不支給通知書」が交付されます。その場合は、住宅を確保している不動産業者等に住居確保給付金不支給決定により、賃貸借契約を締結できない旨を連絡してください。
- ・ 「住居確保給付金支給対象者証明書」の交付にあわせて、「住宅確保報告書」の用紙が配布されます

◆ 総合支援資金貸付（住宅入居費・生活支援費）の申込み

- ・ 敷金、礼金等の初期費用を用意することが困難な方は、市町村社会福祉協議会に「入居予定住宅に関する状況通知書」の写し及び「住居確保給付金支給対象者証明書」の写しを提出して、総合支援資金貸付（住宅入居費）の借入れ申込みが可能です。
- ・ 住居確保給付金受給中の生活費が必要な方は、あわせて社会福祉協議会に総合支援資金貸付（生活支援費）の借入れ申込みが可能です。

◆ 賃貸借契約の締結

- ・ 「入居予定住宅に関する状況通知書」の交付を受けた不動産媒介等に対し、「住居確保給付金支給対象者証明書」を提示し、予定していた賃貸住宅に関する賃貸借契約を締結してください。この際、総合支援資金（住宅入居費）の借入申込みをしている場合は、その写しも提示してください。
- ・ 総合支援資金（住宅入居費）の借入申込みをしている方の場合、本賃貸借契約は、原則として「停止条件付き契約（初期費用となる貸付け金が不動産業者等へ振り込まれたことが確認された日をもって効力が発生する契約）」となります。なお、総合支援資金（住宅入居費）を活用せず、初期費用を自分で用意可能な方の場合には、通常契約となると考えられますが、混乱を防ぐため住居確保給付金対象者については全て停止条件付きの契約とするとしている不動産業者等もあると考えられますのでご注意ください。
- ・ 総合支援資金（住宅入居費）の借入申込みをしている方は、契約締結後、賃貸借契約書の写しを市町村社会福祉協議会に提出してください。審査を経て総合支援資金（住宅入居費）が決定され、住宅入居費が不動産業者等に振り込まれます。

◆ 入居手続き

- ・ 住宅入居費が不動産業者等に振り込まれたことをもって停止条件付きの賃貸借契約の効力が発生しますので、不動産業者等との間で入居に関する手続きを行ってください。
- ・ すぐに住民票の設定・変更手続きをしてください。

◆ 住居確保給付金支給の決定

- ・ 既に「住居確保給付金支給対象者証明書」が交付されていますが、実際に支給を受けるためには、住宅入居後7日以内に、「賃貸住宅に関する賃貸借契約書の写し」及び新住所における「住民票の写し」を添付して、「住宅確保報告書」を生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）に提出してください。
- ・ 「住居確保給付金支給決定通知書」が交付され、あわせて、「常用就職届」、「職業相談確認票」の用紙、必要に応じて「住居確保給付金常用就職活動状況報告書」の用紙が配布されます。
- ・ 住宅を確保している不動産業者等に対して「住居確保給付金支給決定通知書の写し」を提出してください。
- ・ 住居確保給付金は自治体から不動産業者等へ直接振り込まれます。
- ・ 臨時特例つなぎ資金の貸付を受けている者に対しては、償還について市町村社会福祉協議会の指示を受けることとなります。
- ・ 総合支援資金（生活支援費）の申請をしている方は、「住居確保給付金支給決定通知書」の写しを市町村社会福祉協議会に提出してください。審査が通ると、貸付決定が通知されます。

住宅を喪失するおそれのある方の場合

◆ 住居確保給付金の支給申請

- 必要書類を添えて、申請書を生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）に提出します。
- 申請書の写しの交付にあわせて、「入居予定住宅に関する状況通知書」の用紙が配布されます。

◆ 入居住宅の貸主との調整

- 不動産業者等に申請書の写しを提示するとともに、「入居住宅に関する状況通知書」の記載・交付を受けてください。

◆ 住居確保給付金の確認書類の提出

- 不動産業者等から記載・発行を受けた「入居住宅に関する状況通知書」に賃貸借契約書の写しを添付し、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）に提出してください。

◆ 住居確保給付金の審査・決定

- 審査の結果、受給資格ありと認められた場合には「住居確保給付金支給決定通知書」が交付され、あわせて、「常用就職届」、「職業相談確認票」、必要に応じて「住居確保給付金常用就職活動状況報告書」の用紙が配布されます。
- 入居している住宅の不動産業者等に対して「住居確保給付金支給決定通知書の写し」を提出してください。
- 住居確保給付金は自治体から不動産業者等へ直接振り込まれます。
- 受給資格なしと判断された場合、「住居確保給付金不支給通知書」が交付されます。その場合は、入居している住宅の不動産業者等に住居確保給付金不支給決定となった旨連絡してください。

◆ 総合支援資金貸付（生活支援費）の申込み

- 住居確保給付金受給中の生活費が必要な方は、社会福祉協議会に「住居確保給付金支給決定通知書の写し」を提出し、総合支援資金貸付（生活支援費）の申込みが可能です。審査が通ると、貸付決定が通知されます。

住居確保給付金受給中の義務

- ◆ 支給期間中は、公共職業安定所の利用、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）の支援員の助言、その他様々な方法により、常用就職に向けた就職活動を行ってください。
- ◆ また、毎月1回、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）の支援員等による面接等の支援を受ける必要があります。「職業相談確認票」を支援員へ提示して公共職業安定所における職業相談状況を報告するとともに、その他の就職活動の状況を「住居確保給付金常用就職活動状況報告書」を活用するなどの方法により、報告してください。※ 令和2年4月30日～就労支援等の要件が緩和されています。

受給中に常用就職した場合は届出が必要です

- ◆ 支給決定後、常用就職（雇用契約において、期間の定めがない又は6ヶ月以上の雇用期間が定められているもの）した場合は、「常用就職届」を生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）へ提出してください。
- ◆ 提出した月の翌月以降、収入額を確認することができる書類を、住居確保給付金窓口へ毎月提出してください。

一定の要件を満たせば延長・再延長が可能です

- ◆ 住居確保給付金の受給期間が終了する際に、一定の要件を満たしていれば、3か月間を、2回まで、延長することが可能です。
（要件） ・ 受給中に誠実かつ熱心に就職活動を行っていたこと
・ 世帯の収入と預貯金が一定額以下であること
住居確保給付金の受給期間の延長又は再延長を希望される場合は、当初の受給期間の最終月になったら、収入と預貯金分かる書類を準備して、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）へお越し下さい。再延長を希望する場合は、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）の指示に従って下さい。

支給額を変更できる場合があります

- ◆ 以下の場合に限り、支給額の変更が可能です。
 - ・ 住居確保給付金支給対象住宅の家賃が変更された場合
 - ・ 収入があることから一部支給を受けていた方であって、受給中に収入が減少し、基準額以下に至った場合
- ◆ 生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）に申請書を提出する必要がありますので、家賃が変わった又は収入が下がったことが証明出来る書類をお持ちのうえ、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）へ起こしてください。

住居確保給付金を中止する場合があります

- ◆ 受給中に常用就職し、就労により得られた収入が収入基準額（基準額に家賃額を加算した額）を超えた場合は、その収入が得られた月の家賃相当分から支給を中止します。
- ◆ 住宅を退去した者（大家からの要請の場合、生活自立サポートセンター（自立相談支援機関）の指示による場合を除く。）については、退去した日の属する月の翌月の家賃相当分から支給を中止します。
- ◆ 支給決定後、虚偽の申請等不適正な受給に該当することが明らかになった場合は、直ちに支給を中止します。
- ◆ 受給者及び受給者と同一の世帯に属する者が暴力団と判明した場合、禁錮刑以上の刑に処された場合、生活保護費を受給した場合は支給を中止します。
- ◆ 支給を中止する場合には、「住居確保給付金支給中止通知書」を交付します。

住居確保給付金の再支給について

- ◆ 住居確保給付金は、原則一人一回の支給です。
- ◆ ただし、住居確保給付金を受け、その結果常用就職に至ったものの、会社の都合で解雇になった場合や会社が倒産した場合に限り、2度目の支給を受けることができます。

住居確保給付金を徴収する場合があります

- ◆ あらかじめ雇用期間が決まっていて、更新のないことに合意していた場合は会社都合の解雇には当たりません。住居確保給付金の支給中に虚偽の申請等不適正受給に該当することが判明した場合には、既に支給した給付について自治体が徴収するとともに、以降の住居確保給付金の支給も中止することとなります。

お問い合わせ先
福島県本宮市保健福祉部
社会福祉課生活支援係
TEL：0243-24-5372（直通）
FAX：0243-34-3138